

- 「真壁塗り壁(中・上塗り)」---木舞掻き、荒壁塗り裏戻し迄は構造編の軸組壁貫項で計測・計算(積算)記載済み。中塗が中塗用土塗りの場合は、中塗り・仕上げ塗りの項に分けて見積書記載すること。塗り壁数値(か所数値)・散り・八掛け散り・底目地散りなどの延長さなど、設計数量を記載する。
- 「真壁塗り壁(木摺下地)・(ラスボード下地)」----下地を明記すること。木摺下地の場合は下地塗り付け(こすり付け)後、下地塗り充分に乾燥するのを待ち、下地木習に変化(曲り・くせり・色調)があらわれたら、そのか所の木摺材の取り替えをおこなうこと。塗り壁下地・塗り壁数値(か所数値)・散り・八掛け散り・底目地散りなどの延長さなど、設計数量を記載する。
- 「真壁クロス貼り」---計測・計算の数値、設計数量として記載する。
(参考)---クロスの必要数値の基準(1間=1.820mm)・(リピート50mm以内)
設計数量 × 1.165 ~ 1.170 = 必要数量。
- 「真壁下地材」
※木摺材 ~ (1間=1.820mm) 基準として。
仕上げ設計数量 × 1.10 ~ 1.15 = 必要数量。
※合板・ボード・ラスボード。~ 寸法が3尺×6尺(910×1.820mm)の場合。
設計数量(m²) ÷ 1.4m² = 必要枚数(端数切上げとする)。
- 「化粧壁材・化粧合板(市販品)」---働き幅・働き長さ、割付け必要数値(附属部品)を算出し、梱包入数を調べる。「梱包数」所要数量・「必要数値」設計数量を記載する。必ず附属品の記載を忘れずに。
(参考)---化粧合板 2尺×8尺(606×2.438mm)の場合で割付け(形状)が複雑な場合。設計数量(m²) ÷ 1.20m² = 必要枚数(端数切上げとする)。
- 「加工木材板」----加工働き幅・働き長さ・厚さなどを調べて、割付け必要数値を算する。梱包入数を調べる。「梱包数」所要数量・「必要数値」設計数量を記載する。特注品の場合は、仕上げ寸法より「挽立幅・厚さ・長さ」などを明記し、木肌・木目・ぎず(しなり)などで使用しかねる場合の爲に2%・5増量すること。
- 「壁クロス貼り」---計測・計算の数値、設計数量として記載すること。
※高級クロスや特に薄いクロス・和紙貼り等の場合は ふくろ貼り にて作業すること。ふくろ貼り ~ 下地捨貼り(薄い和紙や布地が使用される)貼材料の四方と内側の貼る糊の濃度が違っている。古来からの表具店で作られていた襖の襖貼り工法をふくろ貼りと云う。
(参考)---クロス必要数値(リピート50mm以内)の基準として
設計数量 × 1.15 = 必要数値。
普通に作業貼りあげた場合わずか残る。後日補修材として施主側に保管してもらう。
- 「壁貼り下地合板・ボード」---計測・計算・割付けによる数値、必要数量(枚数)